

人生に効く古典文学（一）「古事記」と世界の冥界下り

●今日の「人生に効く」処方箋

死ぬと「死」、神と命（みこと）、女性、笑いなど

5 『古事記』 日本最古の書物。 712年

6 元明天皇に献上。神話の時代から推古天皇の代まで。

7 女性↓『旧約聖書（創世記）』との比較

- 8 ●神である主（ヤハウェ：יהוה）は、人から取ったあばら骨で女を造り
- 9 上げ、人のところへ連れて来られた。そこで、神である主は人を深い
- 10 眠りに落とされた。人が眠り込むと、そのあばら骨の一つを取り、そ
- 11 こを肉で閉ざされた。人は言った。「これこそ、私の骨の骨、肉の肉。
- 12 これを女と名付けよう。これは男から取られたからである。」（2章）
- 13 ●神（エロヒム：יהוה）は言われた。「我々のかたちに、我々の姿に
- 14 人を造ろう…」神は人を自分のかたちに創造された。神のかたちにこ
- 15 れを創造し男と女に創造された。（1章）
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23

万葉仮名で書かれる↓『日本書紀』との違い。「多陀用幣流」↓漂へる

19 編纂…稗田阿礼に『帝紀』及『本辭』を「誦習」させ…文字を読めたか

20 太安万侶が編纂。

22 上・中・下の三卷

23 上つ巻が神話

1 【上つ巻】

2 ●神々と国々の誕生

3 神々の誕生

4 イザナギ、イザナミの聖婚

5 国生み

6 イザナミの神避りとイザナギの冥界下り

7 ●三皇子とその性質

8 禊と三皇子の誕生

9 スサノオの放逐（一）

10 ●アマテラスとスサノオ

11 アマテラスとスサノオの対決と和解

12 天岩戸隠れ

13 スサノオの放逐（二）と五穀の誕生

14 スサノオのヤマタノオロチ退治

15 ●大国主の物語

16 大国主の漂泊（一）因幡の白兔

17 大国主の漂泊（二）スサノオ訪問

18 大国主の国譲り

19 ●天皇家への系譜

20 ニニギの命の天孫降臨

21 コノハナサクヤヒメと火の中の出産

22 ●海と陸との戦い

23 海幸彦と山幸彦

24

25 【今日扱う神話】

26 神々の誕生

27

伊邪那岐、伊邪那美の聖婚と国生み

28

イザナミの神避りとイザナギの冥界下り…死ぬと「死」、黄泉とは

29

禊と三神（三皇子）の誕生

30

天岩戸隠れ

31

1 【神々の誕生】

- 2 天地初めて發（ひら）けし時、高天の原に成れる神の名は、**天之御中主**（あめのみなかぬし）神、次に**高御産巢日**（たかみむすひ）神、次に**神産巢日**（かむむすひ）神、此の三柱の神は、みな獨神（ひとりがみ）と成り坐して身を隠したまひき（隱身）。
- 5 次に國稚く、浮きし脂の如くして、海月なす（久羅下那州）漂える（多陀用幣流）時、葦牙（あしかび）の如く萌え騰（あが）る物に因りて成れる神の名は、**宇摩志**（うまし）**阿斯訶備**（あしかび）**比古遲**（ひこぢ）の神、次に天之常立神、此の二柱の神も亦、獨り神と成り坐して身を隠したまひき。上（かみ）の件（くだり）の五柱の神は「別天神（ことあまつかみ）」。
- 9
- 10 次に成れる神の名は、國之常立神、次に豐雲野神。此の二柱の神も亦、獨神と成りまして身を隠したまひき。
- 11
- 12

13 対偶神

- 14 次に成れる神の名は、宇比地邇（うひぢに）の神、
- 15 次に妹・須比智邇（すひぢに）の神。
- 16 次に角杣（つのぐひ）の神、次に妹・活杣（いくぐひ）の神。
- 17 次に意富斗能地（おほとのぎ）の神、
- 18 次に妹・大斗乃辨（おほとのべ）の神。
- 19 次に於母陀流（おもだる）の神、
- 20 次に妹・阿夜訶志古泥（あやかしこね）の神。
- 21 次に**伊邪那岐**（いざなぎ・き）の神、次に**妹・伊邪那美**（いざなみ）の神。
- 22 上（かみ）の件（くだり）の國之常立神・以下（よりしも）、伊邪那美神・以前（よりさき）を、并（あは）せて神世七代（ななよ）と稱（い）ふ。
- 23

1 国土の修理固成

2 ここに天つ神、諸々の命以ち、伊邪那岐命、伊邪那美命の二柱の神に詔（の）りた
3 まはく、この漂へる（多陀用幣流）國を修理（おさ）め固め成せとのりたまひ、天の
4 沼矛（ぬほこ）を賜ひて、言依さし賜ふ。故（かれ）、二柱の神、天の浮橋に立たして、
5 その沼矛を指し下ろして畫（か）かせば、鹽こをろこをろ（許々袁々呂々）に畫き鳴
6 して、引き上ぐる時に、其の矛の末（さき）より垂（しただ）り落つる鹽の累積（か
7 さな）り嶋と成る。是れおのごろ（淤能基呂）嶋なり。其の嶋に天降り坐して、天の
8 御柱を見立て、八尋殿（どの）を見立てたまふ。

9

10 【聖婚と国生み】

11 ここに其の妹、伊邪那美の命に問ひて曰（の）りたまはく、「汝（な）が身は如何に成
12 れる」とのたまふ。答へて曰りたまはく「吾（あ）が身は、成り成りて成り合はざる
13 處一處在り」とまをす。爾（しか）して伊邪那岐命詔りたまはく、「我（あ）が身は、
14 成り成りて成り餘れる處一處在り。故（かれ）此の吾身の成り餘れる處を以ち、汝が
15 身の成り合はざる處を刺し塞ぎて、國土（くに）を生み成さんと以爲ふ。生むこと奈
16 何」とまをす。

17 於是問其妹伊邪那美命曰、汝身者如何成。答曰吾身者、成成不成合處一處在。爾伊邪那岐命詔、我身者、成成而成
18 餘處一處在。故以此吾身成餘處、刺塞汝身不成合處而、以爲生成國土。生奈何。訓生云字牟。下效此。

19

20 伊邪那美の命、答へて曰さく「然善けむ」とまをす。爾して伊邪那岐の命詔りたまは
21 く、「然かあれば吾れと汝（な）と、この天の御柱を歩き廻り逢ひて、みとのまぐはひ
22 （美斗能麻具波比）せむ」とのりたまひき。かく期（ちぎ）りて、詔りたまはく「汝
23 （いまし）は右より廻り逢へ、我は左より廻り逢はむ」とのりたまふ。

24 伊邪那美命、答曰然善。爾伊邪那岐命詔、然者吾與汝行廻逢是天之御柱而、爲美斗能麻具波比。此七字以音。如此
25 之期、乃詔、汝者自右廻逢、我者自左廻逢。

26

1 約（ちぎ）り竟へて廻る時に、伊邪那美の命、先ず「あなにやし（阿那邇夜志愛）え
2 をとこを（袁登古袁）」と言ひ、後（のち）に伊邪那岐の命「あなにやし（阿那邇夜志
3 愛）えをとめを（袁登賣袁）」と言ふ。各おの言ひ竟（お）へし後、其の妹に告げて曰
4 りたまはく、「女人（をみな）先ず言へるは不良（さがな）し」とのりたまふ。

5 約竟廻時、伊邪那美命、先言阿那邇夜志愛上袁登古袁、此十字以音。下效此。後伊邪那岐命、言阿那邇夜志愛上
6 袁登賣袁、各言竟之後、告其妹曰、女人先言不良。
7

8 然あれども、くみど（久美度）に興して生める子、水蛭子（ひるこ）。この子は葦船に
9 入れて流し去（や）りつ。次に淡嶋を生みたまふ。是も亦子の例（かず）に入れず。

10 雖然久美度邇此四字以音。興而生子、水蛭子。此子者入葦船而流去。次生淡嶋。是亦不入子之例。
11

12 ※このあと結婚をし直し、さまざまな島を生む
13

14 【イザナミの神避りと冥界トリ】

15 次に火（ひ）之夜藝（やぎ）速男（はやを）の神を生みたまふ。亦の名は火之炫
16 毘古（かがびこ）の神と謂ひ、亦の名は火之迦具土（かぐつち）の神と謂ふ。此の子
17 を生みたまひしに因りて、みほと（美蕃登）炙（やか）へて病み臥（こや）せり。

18 たぐり（多具理）に生（な）れる神の名は、金山（かなやま）毘古の神、次に金山
19 毘賣（ひめ）の神。次に尿（くそ）に成れる神の名は、波邇夜須（はにやす）毘古の
20 神、次に波邇夜須毘賣の神。次に尿（いばり）に成れる神の名は、彌都（みつ）波能
21 賣（はのめ）の神、次に和久（わく）産巢日（むすひ）の神、此の神の子は、豊宇氣
22 （とようけ）毘賣の神と謂ふ。

23 故、伊邪那美神は、火の神を生みたまひしに因り、遂に神避（さ）りましぬ。

24 次生火之夜藝速男神。夜藝二字以音。亦名謂火之炫毘古神、亦名謂火之迦具土神。迦具二字以音。因生此子、美蕃
25 登此三字以音。見炙而病臥在。多具理邇此四字以音。生神名、金山毘古神、訓金云迦那、下效此。次金山毘賣神。
26 次於尿成神名、波邇夜須毘古神、此神名以音。次波邇夜須毘賣神。此神名亦以音。次於尿成神名、彌都波能賣神、
27 次和久産巢日神。此神之子、謂豊宇氣毘賣神。自宇以下四字以音。故、伊邪那美神者、因生火神、遂神避坐也。自
28 天鳥船至豊宇氣毘賣神、并八神。

2 【略】イザナミの埋葬とイザナギによる火の神の殺害と神々の誕生が語られる

4 イザナギの冥界下り

5 〆〆に其の妹、伊邪那美命を相見むと欲（おも）ひて、**黄泉の國**に追ひ往きき。爾
6 〆〆に殿の騰戸（さしど）より出で向かへし時、伊邪那岐命語らひ詔りたまひし
7 く、「愛（うつく）しき我がなに妹（も）の命、吾（あれ）と汝（いまし）と作れる國、
8 未だ作り竟へず。故、還るべし」とのりたまひき。

9 於是欲相見其妹伊邪那美命、追往黄泉國。爾自殿騰戸出向之時、伊邪那岐命語詔之、愛我那邇妹命、吾與汝所作之
10 國、未作竟。故、可還。

11 爾に伊邪那美命答へて白ししく、「悔しきかも、速く来ずて。吾、**黄泉つ戸喫**（へぐ
12 ひ）しつ。然れども愛（うつく）しき我がなせの命、入り來ませること恐（かしこ）
13 し。故、還らんと欲ふを、且く**黄泉神**と相論（あげつら）はん。我（あ）をな視たま
14 ひそ」とまをしき。

15 爾伊邪那美命答白、悔哉、不速來。吾者爲黄泉戸喫。然愛我那勢命、那勢二字以音。下效此。入來坐之事恐。故、
16 欲還、且與黄泉神相論。莫視我。

17 かく白して、その殿の内に還り入りし間、**甚（いと）久しくて待ち難（かね）たま**
18 **ひき**。故、左の御みずら（美豆良）に刺せる、ゆつつま（湯津津間）櫛の男柱（をば
19 しら）一つ取り闕きて、一つ燭火（ひとも）して入り見たまひし時、**蛆たかれころろ**
20 **きて**（宇士多加禮許呂呂岐弓）、頭（かしら）には大雷（おほいかづち）居り、胸には
21 火（ほ）の雷居り、腹に黒雷居り、陰には拆（さく）雷居り、左の手には若雷居り、
22 右の手には土雷居り、左の足には鳴雷居り、右の足には伏雷居り、**并せて八はしらの**
23 **雷神成り居りき**。

24 如此白而、還入其殿内之間、甚久難待。故、刺左之御美豆良、三字以音。下效此。湯津津間櫛之男柱一箇取闕而、
25 燭一火入見之時、宇士多加禮許呂呂岐弓、此十字以音。於頭者大雷居、於胸者火雷居、於腹者黒雷居、於陰者拆雷
26 居、於左手者若雷居、於右手者土雷居、於左足者鳴雷居、於右足者伏雷居、并八雷神成居。

27 〆〆に伊邪那岐命、見畏みて逃げ還る時、其の妹、伊邪那美命、「吾（あれ）に辱（は

1 ぢ) 見せつ」と言ひて、すなわち「よもつしこめ(豫母都志許賣Ⅱ黄泉醜女)」を遣は
2 して追はしめき。

3 於是伊邪那岐命、見畏而逃還之時、其妹伊邪那美命、言令見辱吾、即遣豫母都志許賣此六字
4 以音。令追。

5 爾に伊邪那岐命、**黒御鬘(みかづら)**を取りて投げ棄つれば、乃ち蒲(えびかづら)
6 の子(み)生りき。こを撫(ひろ)ひ食(は)む間に、逃げ行くを、猶ほ追ひしかば、
7 亦た其の右の御みずら(美豆良)に刺せる「ゆつつま(湯津津間)櫛」を引き闕きて
8 投げ棄つれば、乃ち笋(たかむな)生(な)りき。こを抜き食む間に、逃げ行きき。

9 爾伊邪那岐命、取黒御鬘投棄、乃生蒲子。是撫食之間、逃行、猶追、亦刺其右御美豆良之湯津津間櫛引闕而投棄、
10 乃生笋。是抜食之間、逃行。

11 また後には、其の八はしらの雷神に、千五百(ちいほ)の黄泉つ軍(いくさ)を副
12 (そ)へて追はしめき。爾に御佩(はか)せる十拳(とつか)の劔を抜きて、後手(し
13 りへで)に振きつつ(布伎都都)逃げ来るを、猶ほ追ひて、黄泉比良坂の坂本に到り
14 し時、其の坂本にある桃の子(み)三箇(みつ)を取りて待ち撃てば、悉(ことごと)
15 に逃げ逝(か)りき也。

16 爾に伊邪那岐命、其の桃の子に告(の)りたまひしく、「汝(なれ)、吾を助けしが
17 如く、葦原の中つ國にあらゆる現しき(宇都志伎)青人草の、苦しき瀬に落ちて患ひ
18 惚(なや)む時、助くべし」と告(の)りて、名を賜ひて「おほかむづみの命(意富
19 加牟豆美命)」と號(い)ひき。

20 且後者、於其八雷神、副千五百之黄泉軍令追。爾拔所御佩之十拳劔而、於後手布伎都都此四字以音。逃來、猶追、
21 到黄泉比良此二字以音。坂之坂本時、取在其坂本桃子三箇待擊者、悉逃逝也。爾伊邪那岐命、告其桃子、汝如助吾、
22 於葦原中國所有、宇都志伎此四字以音。青人草之、落苦瀬而患惚時、可助告、賜名號意富加牟豆美命。自意至美以
23 音。
24

25 最後(いやはて)に其の妹、伊邪那美命、身自ら追ひ來たりき。爾に千引の石(い
26 は)を其の黄泉比良坂に引き塞(さ)へて、其の石を中に置き、各おの對(むか)ひ
27 立ちて、事戸(ことど)を度(わた)す時、伊邪那美命言ひしく、「愛(うつく)しき

1 我がなせの命、かく爲（せ）ば、汝（いまし）の國の人草、一日（ひとひ）に千頭（ち
2 がしら）絞（くび）り殺さむ」といひき。

3 爾に伊邪那岐命詔りたまひしく、「愛しき我がなに妹（も）の命、汝（いまし）しか
4 せば、吾（あれ）一日に千五百（ちいほ）の産屋（うぶや）を立てむ」とのりたまひ
5 き。

6 最後其妹伊邪那美命、身自追來焉。爾千引石引塞其黄泉比良坂、其石置中、各對立而、度事戸之時、伊邪那美命言、
7 愛我那勢命、爲如此者、汝國之人草、一日絞殺千頭。爾伊邪那岐命詔、愛我那邇妹命、汝爲然者、吾一日立千五百
8 産屋。

9 〔こ〕をもちて一日（ひとひ）に必ず千人（ちたり）死に、一日に必ず千五百（ちいほ）
10 人（たり）生まるるなり。故、其の伊邪那美神命を號（なづ）けて「黄泉津大神」と
11 謂ふ。（略）

12 是以一日必千人死、一日必千五百年生也。故、號其伊邪那美神命謂黄泉津大神。
13

14 【禊と三神の誕生】

15 〔こ〕を以ちて伊邪那伎の大神詔りたまひしく、「吾（あ）は伊那志許米志許米（いなし
16 こめしこめ）き穢（きたな）き國に到りてありけり。故（かれ）、吾は御身（みみ）の
17 禊せむ」とのりたまひて、竺紫（つくし）の日向の橘の小門（をど）の阿波岐（あは
18 ぎ）原に到りまして、禊ぎ祓ひたまひき。

19 是以伊邪那伎大神詔。吾者到於伊那志許米上志許米岐。此九字以音。穢國而在祁理。此二字以音。故吾者爲御身
20 之禊而。到坐竺紫日向之橘小門之阿波岐。此三字以音原而。禊祓也。

21 参考『被詞』：掛（か）けまくも畏（かしこ）き 伊邪那岐大神 筑紫の日向の橘の小戸（おど）の阿波岐原
22 に 御禊祓（みそぎ）へ給ひし時に生（な）り坐せる祓戸（はらえど）の大神等 諸（もろもろ）の禍事（まがごと）罪穢（けが）
23 れ有らむをばを 祓（ま）へ給ひ清め給へと白（まを）す事を聞こし食（め）せと 恐（かしこ）み恐（かしこ）み
24 も白す

25 【略】 〔こ〕びやまぢまな神々が誕生して、最後に…

26 〔こ〕に左の御目を洗ひたまふ時に成りませる神の名は、天照大御神。

27 次に右の御目を洗ひたまふ時に成りませる神の名は、月讀命。

次に御鼻を洗ひたまふ時に成りませる神の名は、**建速須佐之男命**。

2 於是洗左御目時。所成神名。天照大御神。次洗右御目時。所成神名。月讀命。次洗御鼻時。所成神名。建速須佐之
3 男命

5 **【略】**イザナギ、アマテラスには高天原、ツクヨミには夜の食（をす）国、スサノオ
6 には海原の統治を命ずるが：

8 **【天岩戸神話】**

9 故ここに天照大御神、見畏みて、天の石屋戸を閉じて、刺しこもり坐しき。爾（（ハハ））
10 に高天原皆暗く、葦原の中つ國悉（（ことごと））に闇し。此れに因りて常夜往く。（ハハ）
11 に萬の神の聲（おとなひ）は、狹蠅（さばえ）なす満ち、萬の妖（わざわひ）悉に發
12 （おゝ）りき。

13 故於是天照大御神見畏、閉天石屋戸而、刺許母理此三字以音。坐也。爾高天原皆暗、葦原中國悉闇。因此而常夜
14 往。於是萬神之聲者、狹蠅那須此二字以音。滿、萬妖悉發。

15 **《参考》**「推古記」卅五年。夏五月、蠅ありて聚集（あつま）る。其の凝り累（かさ）なること十丈
16 （30.3m）ばかり。虛（おほぞら）に浮びて以て信濃坂を越ゆ。鳴る音、雷の如し。則ち東のかた
17 上野國に至りて自づからに散（う）せぬ。

18 是を以ちて八百萬の神、天の安之河原に、神集ひに集ひて、

20 ・高御産巢日の神の子、**思金神**に思はしめて、

21 ・常世の長鳴き鳥を集めて鳴かしめ、

22 （A）天の安の河の河上の天の堅石（かたしは）を取り、天の金山の鐵（かね）を取りて、鍛人（か
23 めち）天津麻羅（あまつまら）を求（ま）ぎて、伊斯許理度賣命（いしこりどひめ）に科（おお）
24 せて、鏡を作らしめ、
25 （B）玉祖（たまおや）の命に科（おお）せて、八尺（やさか）の勾璫（まがたま）の五百（いほ）
26 つのみすまるの珠を作らしめて、

27 （C）天兒屋（あまのこやね）の命、布刀玉（ふとだま）の命を召して、天香山の眞男鹿の肩を内
28 抜きに抜きて、天香山のはかを取りて、占合（うらな）ひまかなはしめて、
29 天の香山の五百つの眞賢木（まさかき）を、根こじにこじて

30 上枝（ほつえ）に、八尺の勾璫の五百つのみすまるの玉を取り著け、

31 中枝（なかつえ）に、八尺の鏡を取り繫け、

32 下枝（しづえ）に、白丹寸手（しらにきて）、青丹寸手（あをにきて）を取り垂（し）でて、

33 此の種種（くさぐさ）の物は、布刀玉の命、布刀御幣（みてぐら）と取り持ちて、

34 天兒屋の命、ふと詔戸言（のりとごと）禱（ほ）き白（まを）して、

- 1 ・天の手力男の神、戸の掖（わき）に隠り立ちて、
 2 ・天の宇受賣の命、天の香山の天の日影を手次（たすき）に繋けて、
 3 天の眞拆（まさき）を鬘として、
 4 天の香山の小竹葉（ささば）を手草に結ひて、
 5 天の石屋戸に汗氣（うけ）伏せて、蹈みとどろかし、
 6 神懸りして、胸乳（むなち）を掛き出で、裳緒（もひも）をほとに忍し垂りき。
 7 ・爾（こゝ）に高天原動（とよ）みて、八百萬の神共に咲ひき。

世界の冥界下り

9 ・イナンナの冥界下り（楔形文字）

11 イナンナ（天地の女神）、エレシュキガル（冥界の女神）

12 an gal-ta ki gal-še3 ġeštug2-ga-ni na-an-gub
 13

14 ・デーメーテール讃歌（『ホメーロス讃歌』）

15 デーメーテール（母）、ペルセポネ（娘）、ハーデース（冥界の王）

16 エレウシースの秘儀

17

18 ・オルフェウスの冥界下り（『変身物語』）

19 オルフェウス（歌人）、エウリュディケ（妻）、ペルセポネ（冥界の女王）

20 ne flectat **retro** sua **lumina**, donec **Avernas**
 21 not 向ける 後ろへ 彼の 目を くまぐ アウエルヌスの

22 後ろを振り返ってはならぬ、

23 **exierit valles**, aut **inrita** **dona futura.**
 24 出る 谷を さもなくば 無効な 贈り物 未来の

25 冥界の谷（＝冥界）を出るまでは。さもなくば、恩沢は無に帰すというものであった。

26 hic, ne deficeret, **metuens** avidusque **videndi**

27 そいつ not 力尽きる（消え去る） 恐れ（不安） 渴望している 見ることを

28 **metuō.**